



祝150周年

やさしさと 思いやりで

笑顔がいっぱい！



教育データ利活用推進校 研究発表会

本校では、長崎市教育委員会の指定を受け、「教育データ利活用推進校」として研究を行ってきました。AI型教材「キュビナ」等を学力向上に活かすための研究です。

先日1月17日、その成果を長崎市内の先生方に発表し、子供たちの学びの姿に多くの称賛の声をいただきました。代表的なものを紹介します。

学習課題を達成させるために、教科書やキュビナのワークブック、プリントを選んで解くことなど、多くの学び方の選択肢をあたえ、「正答率をレベルアップしよう」というめあてを達成させていく姿を見ることができました。事前に取り組ませたワークブックという客観的データをもとに、自分たちで選択肢を選び学びに向かう姿はとても参考になりました。

子供たちが自分で考えて自らの課題に向き合い、自分に適した学習形態を選んでいることが、これからの子供たちの学びの姿であると感じました。教師が子供の伴走者であるということも、今回のような学習形態では色濃く現れると思います。



1人でキュビナの問
題を選んで弱点克服



2人で難易度の高い
プリントに挑戦

この日は4年1組と6年2組の授業を公開しました。教科は算数科、単元のまとめの授業です。全員、教科書のまとめの問題をノートに解いていくのが従来型の授業の

代表例ですが、私たちが提案した授業では、子供たちが自分の学習状況をデータで知り、正答率を上げるために、どんな内容をどんな方法で学ぶか、自分で決めて取り組みます。学びの主体は子供たちです。

6年生児童の授業後の「ふりかえり」を紹介します。

前々回や前回みたいに近くの人とやったらなんと正答率が・・・100%でした。前回みたいに学習履歴を見て苦手なところを知ってやりました。なので次回以降も、やっていけたらと思います。

今日は、ワークブック、単元学習、MEXCBTをたくさんしました。MEXCBTでは、解く過程をノートに書き、間違えたところをやり直すようにしました。2回目のワークブックは約2分ででき、1分くらい速く解けるようになりました。まだ、小数の掛け算、わり算は苦手なので練習をしていきたいと思いました。

※ MEXCBT は、文部科学省が開発した児童生徒がデジタル端末で学びを進められるようにした教育システムです。国や自治体が作成した問題が揃っています。

自分で自分の力を客観視し、効果的な学習方法を選んで学ぶ姿が見てとれます。デジタルばかりではなくノートを使う良さもわかって取り組んでいます。理想的な学びの姿です。

さて、キュビナのよさの一つは、問題を解いて瞬時に正解・不正解がわかるというものです。教師側としても、子供たちひとりひとりの学習状況やクラス全体の傾向など、PC画面で瞬時に把握できます。

他にも、便利な機能がいくつも搭載されています。今回、ご家庭向けに「キュビナの活用方法の紹介」（別添 PDF データ）を作成しました。ぜひ、目を通していただき、お子様の家庭学習サポート等の参考にしてください。